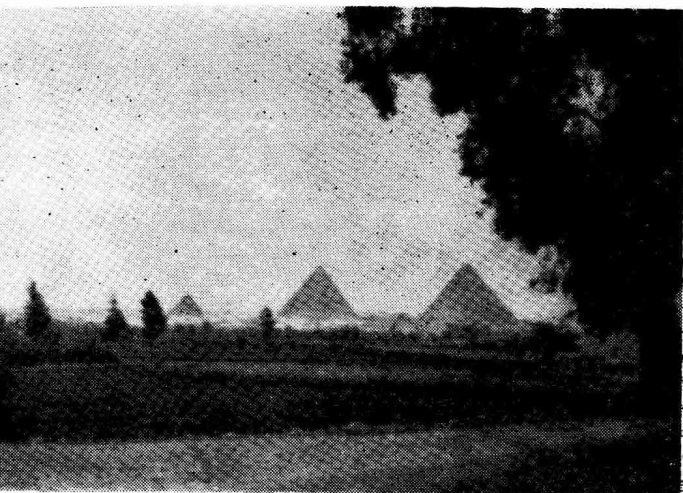


アジア・アフリカ詩集

世界文学全集 第10巻



秋吉久紀夫編訳

アジア・アフリカ詩集

世界現代詩集Ⅸ

訳者 秋吉久紀夫 1930年北九州生れ
九州大学文学部中国文学科卒
日本中国学会 現代詩の会 日本現代詩人会 現代中国学会所員
著書 詩集「南方ふぐのうた」訳書「中国現代詩集」

アジア・アフリカ詩集

¥580

訳者との申合せ
により検印廃止

発行 1969年7月31日
編訳者 秋吉久紀夫
発行者 飯塚 広
印刷者 赤城印刷株式会社

東京都豊島区駒込 6-6-23
発行所 飯塚書店
振替東京13014・電話 (918) 2089

目次

I アフリカ篇

モザンビク

リリノー・ミカイア

自由の樹

祖國を懷う

ルイ・ド・ノロニア

起きろ、行動しろ

アンゴラ

マリオ・ド・アンドレタイ

ザンバルのうた

アコスチーヌ・ネド

われわれは人民の望みである

ベルデ岬諸島

アキナルド・フォンセカ

黒いママ

象牙海岸

ボナール・ブア・ダキヤ

あなたの涙をぬぐえ／

ギニア

ニエニエ・クハリ

アフリカの気候

コンゴ

マーシャル・シンダ

朝焼け

セネガル

レオポルド・セダール・サンゴール

シイヌの夜

ニューヨークで

ダーウエイ・ティオーブ

反抗

アフリカ

堪えられぬよ・貧苦のニグロノ

サンベネ・ウスマン

ほんのわずかな火

ガーナ

マティ・マークゥイ

わたしたちの村里

ニジェール

ダニス・チコデ・オサデベ

エンコルの弾圧された砦山工の墓碑銘

Ⅱ 中東・アラブ篇

イラク

アブドラ・ワハブ・パイヤテ

太陽の同志

バグダッドのうた

レバノン

アサド・サイド

幸福のたいまつ

アラブ連合(エジプト)

ハフエツ・イボラシム

ぼくらはアラブ人

モハメッド・ファホメー

国を愛するものうた

アルジェリア

ブアレム・カルファ

がっこう

アブ・アリー——カシン・サダラ

NON!

ハキブ・ヤシン

めらめらと燃えあがる烈火

イラン

ラフディ

イランのひとびとへ

ツオバァハリ

激流

トルコ

W・イホマリカン

詩一篇

ナジム・ヒクメット

世界・友・てき・おまえと土地

III アジア篇

モンゴル

ラムスルン

海

T・ナチュクタルキ

ぼくの祖国

朝鮮

チオ・キチョン

かあさん

ベトナム

チオ・ホイチャン

成熟

トー・ユー

西北へ出発する

インドネシア

S・アナダクナ

湿っている土地

ビルマ

マオティイ

ビルマの空

パキスタン

フェイツ・アイハマイト・フェイツ

祖国よ、いまわたしはあなたを想っている

インド

アンリダ・ポリタン

ハリス・シアに

サラチネ・ナイツ

コラマンド海の漁夫

セイロン

アシムル・ピリス

マンゴーの樹

ネパール

ロヘナド・バオテアラヤ

籠のなかの鸚鵡

IV 長詩

マダガスカル

ジャク・ラベマナンジャラ

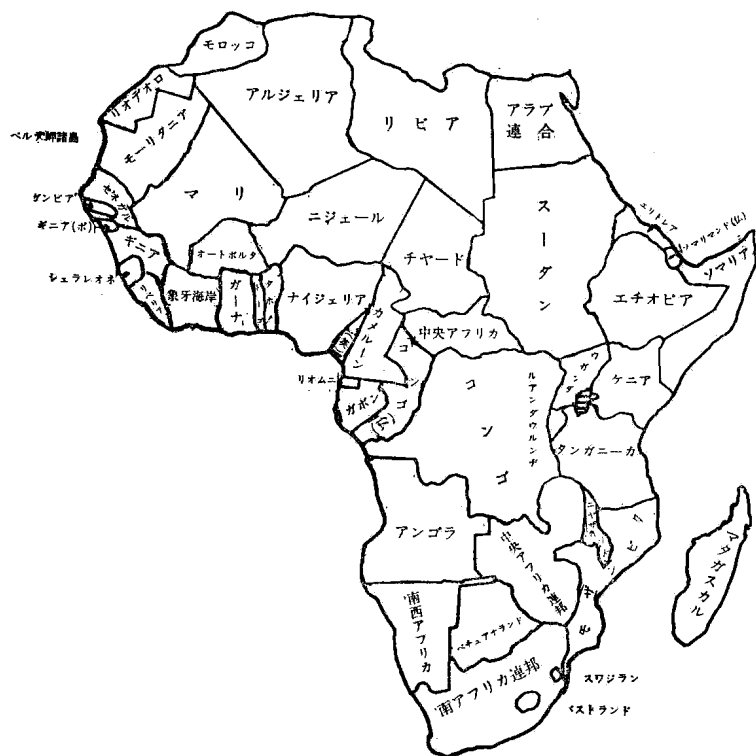
祖国

解説 アジア・アフリカ圏の詩人たち

詩人略歴

資料提供 アジア・アフリカ作家会議日本協議会

I アフリカ篇



モザンビク

リリノー・ミカイア

自由の樹

樹を植えるときがきた、

ねえ、おふくろよ、

樹を植えるときがきた、

空の星に、

あしうらの、

血痕のまだ残っている海辺に、

太陽の焦げつく大通りに――

樹を植えるときがきた。

こころの奥のひそかな希望のなかに、

伸びる掌のうちに、

きょうの暗黒のなかに、

あすのしのめのときに、

樹を植えるときがきた。

苦しみをなめ尽したからだに、

数え切れない不幸と、

労働で湾曲した手で、

疲れ果たされた大地に、

鮮血の浸みとおった土地に――

樹を植えるときがきた、

いたるところにたがいの理解の種子を植えつけよう。

樹を植えるときがきた、

いたるところに植えつけよう、

すばらしいあすの信念に、

あなたの愛の信念に、

子どもたちの眼のなかでいまに、

それは希望を燃えあがらせる――

樹を植えるときがきた、

ねえ、おふくろよ、

それぞれの民族のために、

あらゆる大通りのかたわらに、

自由の樹を植えつけよう！

『リリノー・ミカイア詩選』

モザンビク

リリノー・ミカイア

祖国を懐う

わたしはやさしい祖国を懐っている……

そこでは、大海はいますべてを語りかけている
この大地がなめたむごく悲慘な仕打ちを、
あの海外からやって来たひとびとは

この大地を

全身なま傷だらけに踏みにじっている

わたしはやさしい祖国を懐っている……

そこでは、黄昏ときに、

棕櫚の樹がひくい声でうたをうたっている

わたしたちの祖先たちのせつない歌を、

あの海外からやって来たひとびとは、

かれらをみな奴隷に変えた……

あの海外からやって来たひとびとは、

銃砲と悪意を携えてきた。

あのひとびとのところには、情けもなければ、道理もない……

あのひとびとは恨みと人殺しを代価として支払って、

わたしたちの黄金を、

象牙を持ち去り、

そしてわたしたち黒人の兄弟をも持ち去った……

あの海外からやって来たひとびとは、

火を噴く大砲を運んで来た、